

季節を詠む、
時流を詠む

四季の歌

美野里短歌クラブ

母親に叱られたのか吾が部屋の隅にまるまる八歳の孫
日本はどこへ向かうか平和への道は続くか不安のよぎる
暑き日の区のクリーンデー参加者は汗をふきふき草を刈りおり
人の世は人毎違ふ気持なり思いやりこそ和のもととなる
この夏の滝を見ようと計画し増えるコロナに行く勇氣なし

小川短歌会

友逝きて六十年の時は経ぬ三十路の面輪のままに頭ちくる
伸び早き雑草を刈る老いの手に残るきようはこれまで
地下二階に放射線治療を待つ人らこんな暗い顔しているのかわれも
「お年です」 医師は言いたり通院の道に添いやさし福神草咲く

玉里短歌会

杉木立茂れる中を夕迫る女人高野の室生寺訪いき
野仏の赤い前だれ新しく手をあわせればふふふと笑う
年ごとに水揚げ量の減る秋刀魚細身一尾を妻と分け合う
コロナ禍にプールも旅行も自粛の夏祖母父母の我が家は民宿のごと
白老の手彫りの小熊棚に置くアイヌの里のまつりを忍び



菱沼清子	山口和代	宇都宮和子	碓谷きえ	白根澤清香	石田はる江	根本智恵子	幡谷啓子	中根良子	齋藤かつみ	高田久子	松田通喜	野口初江	石橋吉生
------	------	-------	------	-------	-------	-------	------	------	-------	------	------	------	------

みづうみ俳句会

もみじ舞いせせらぎ彩る溪谷美
風邪の子に母摺る林檎の甘さかな
案山子展鎌倉勇士十三人
夕さりの蓮田の色や虫時雨
曼珠沙華群れて炎と咲き競う

みのり俳句会

翳雲波乗りのごと飛機の飛ぶ
寝惜みて今見て又見る良夜かな
さるすべり見事に咲きて賑はいぬ
対岸は黄金一色稲の秋
月やさし夏の日山に落ちしより

櫂の会

秋立つや結び目少しづつゆるむ
秋冷やひと筋ひかる窓の枠
白鳥が旅立ち急ぐサイベリヤ
間引菜の根つこの長さの力かな
秋日傘きょういとほしき湖さざなみ

くるみ俳句会

鍬の土洗い流して秋惜しむ
浮草の紅葉に埋まる池の面
川霧を入れて大湖の静寂かな
栗拾い残さる穂の彼方此方に
秋夕焼雲は友禅流しかな

たまり俳句会

筑波路や色とりどりの柿紅葉
一村を覆い尽くして翳雲
金継ぎの白の大皿月見膳
コスモスや倒れ伏してもなほ咲ける
柿の実の色づき父の忌の近し

小美玉川柳会

田の神も飼料米には苦笑い
青春は後から光る宝物
TE「ワーク聞こえは良いが金縛り
ひと目惚れ胸の内には風車
秋空にポニーテールでランニング

三村れい子	長島美奈子	長島喜代昭	榎本久美子	島田草心	白根澤清香	立原千代	塚田文清	友水	井坂あさ	岡島禮子	岡田進子	村田妙子	木村小夜子	島田篁村	城垣睦子	福内邦誉	堀内いずみ	松崎淑子	矢口友子	大石康子	小玉知子	斉藤富子	まめすけ	江島忠男	岡井昭進	石井昇丘	小橋悠
-------	-------	-------	-------	------	-------	------	------	----	------	------	------	------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----